

1 「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」の推進

中山間地における新たな担い手の確保・育成

◎取組の概要

農業改良普及課では、中山間地域における農業の担い手の減少・高齢化が著しく進む中、地域の農業基盤を維持し、産地振興を図るため、新たな担い手の確保・育成に取り組んでいます。

農業改良普及課内には「農起業支援センター」を設置し、就農希望者が計画的に就農できるよう支援しています。

就農希望者の支援に当たっては、関係市町村や農林業公社、JAと連携しながら進めています。



関係機関・団体との連絡会議
平成29年9月12日（新城市）

◎取組の成果

新たな担い手の確保として、新・農業人フェアや就農林相談会、現地説明会に参加し、73名の個別相談に対応し、5名の新規就農希望者を確保しました。

また、既に農業研修に取り組んでいる研修生5名に対して個別指導を行うとともに、農業次世代人材投資資金（準備型）の受給支援を行いました。

さらに、上記研修生のうち4名に対しては、青年等就農計画及び青年等就農資金利用計画の作成を支援しました。

管内農林業系高等学校の生徒（3校、139名）を対象に、地域農業の理解と就農意欲高揚を図るため、農家ほ場視察や農業理解研修（座学）を実施しました。



新・農業人フェアで相談対応
平成29年7月23日（東京都）

◎今後の展開方向

中山間地域は農業後継者が不足していることから、引き続き取り組みを継続し、管内、管外を問わず、非農家や他産業従事者でも農業に関心を持っている人達に働きかけ、新たな担い手の確保・育成に努めます。



新規就農希望者と就農計画の相談
平成29年9月14日（新城市）

新城市作手地区でトマト選果機を導入

◎取組の概要

新城市では、農山漁村振興交付金を活用し、作手地区で「夏秋トマト」及び「ほうれんそう」のハウス整備に取り組み、新規就農者の確保、生産者所得の向上及び定住の促進を進めてきました。

一方、JA愛知東トマト選果場においては平成6年に導入した選果機の老朽化、新規就農者等による生産量の増加により、既存の設備では選果が追いつかない状況となっていました。

そこでJA愛知東が取組主体となって、平成29年度産地パワーアップ事業を活用し、選果機の機能増強を行いました。



作手地区のトマト栽培の様子

◎取組の成果

新選果場では、選果レーンを1本から2本に増強するとともに、新たな外部品質センサ付きカメラを導入することで、時間当たりの選果量の増加、選果精度の向上が図られました。この施設整備により、目標年度までに生産量727t、販売額2億5千万円を目指します。

表1 産地パワーアップ事業を活用した
トマト選果機の事業計画

	事業開始前	事業目標 (平成31年)
農家数(戸)	20	26
生産量(t)	494	727
ピーク時出荷量(t/日)	12	20
販売単価(円)	339	350
販売額(百万円)	167	254



導入された選果機



新しくなった外部品質センサ

◎今後の展開方向

高品質なトマトを大量に安定して出荷し、大手スーパーなどと契約販売していくことにより、販売額を向上させていく予定です。

循環型林業技術実証事業技能研修の開催

◎取組の概要

本県では「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業を推進しており、平成 26 年度以降、県内各地で主伐・再造林施業に取り組んでいます。

主伐における木材生産技術を定着させる取り組みとして、豊根村において、新型タワーヤードによる主伐・再造林施業の現地実証を行いました。実証中には技術研修を開催し、新たな架線系木材生産技術の普及を図りました。



新型タワーヤードによる木材生産

◎取組の成果

技術研修は、本タワーヤードを初めて使用する豊根森林組合に対し、安全で効率の良い、確かな技術を習得させることを目的とし、技術面の指導をいただけるよう、講師に昨年度実証事業を行った豊田森林組合より現場技術者3名と、本タワーヤードの開発に携わった株式会社泉林業(熊本県)より、タワーヤード操作に長けた技術者2名を招へいしました。

【技術研修の4つの効果】

- ①作業を進めて疑問が出てきた段階で研修を開催したことで、技術の定着・向上を図ることができました。
- ②豊田森林組合の講師の方々も、昨年度泉林業より指導いただいた内容の確認を通じて疑問点などを解消し、更に技術力を向上させることができました。
- ③管外、他県の事業体の現場技術者と交流することで、タワーヤードの操作技術に留まらず、木材生産現場で働く者同士、技術面の話等林業全体の話をし、現場技術者らの仕事技術に対するモチベーションを上げることができました。
- ④安全意識について、一つ一つの作業を教えていただく中で指導いただけました。



集材範囲を講師らと検討



タワーヤード設置位置の検討



先柱の控え索点検方法の
コツを伝授

◎今後の展開

機械があるだけでは木材生産費の低コスト化にはなりません。機械を使いこなす現場技術者がいて、事業地の選定など作業前の準備ができて、はじめて低コスト化が実現します。

今回の実証により、豊根森林組合では、タワーヤードを使い木材生産する現場技術者を育成しました。さらに同森林組合職員は、次の主伐・再造林施業候補地におけるタワーヤードの活用を検討し、習得した技術を定着できるよう、前向きに取り組んでいます。

このような意欲のある林業事業体が、森林所有者の要望に応え地域の循環型林業を推進する優れた事業体となれるように支援していきます。